

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100093		
法人名	医療法人借行会		
事業所名	認知症高齢者グループホームちくさ 2階		
所在地	愛知県名古屋市中種区下方町7丁目29番地1		
自己評価作成日	2020/10/1	評価結果市町村受理日	令和3年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2390100093-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の安心・安全を特に力を入れております。ハード面は温度と湿度を同時にコントロールしてくれる「モイストプロセッサー」の導入で空気の乾燥を防ぎ、インフルエンザ等の感染を出来る限り抑えています。又、睡眠リズムを把握する「眠りスキャン」を導入し夜間の転倒の危険性が高い時やトイレで起きようとした時、未然に情報が職員に伝わるように利用者様の睡眠状況をセンサーで常にキャッチしており、事故の軽減に努めています。ソフトの面は豊富な経験を持った職員が集まったことで、より専門性の高い支援ができています。利用者様の笑顔がより多く見れるように様々な行事を毎月企画し、誕生日会など記念行事を大切にしています。利用者様と関わる機会を多くし常に利用者様の事を職員間で話し合い、より良いサービスが提供できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの特徴として、ホームに常勤の看護職員が配置されていることで、医療的な支援が必要な方もホームでの生活を継続することが可能な体制がつけられている。医療面での支援体制の他にも、ホームでは、ベッドに設置する専用のセンサー装置である「眠りスキャン」を設置していることで、夜間の利用者の睡眠状況や呼吸停止時等にも迅速に対応することができる体制もつけられている。利用者の中には、ホームで最期を迎えた方もあり、医療面での支援を受けながら利用者が最期までホームで過ごすことができる生活環境がつけられている。また、ホーム建物内に居宅介護支援事業所や小規模多機能事業所を併設して運営していることで、利用者が在宅や小規模多機能で生活を継続しながら、利用者、家族の状況に合わせてグループホームに生活場所を移行する支援も行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所内に法人理念と事業所理念を掲示しており、仕事において管理者と職員は意識している。具体的には行事起案やカンファレンス等において日々理念を意識している。また、朝礼にて唱和して共有し認識を深めている。	運営法人の基本理念を職員の支援の基本と考えながら、毎日の申し送りの時間に職員間で唱和する機会がつけられている。また、グループホームの理念もつけられており、地域交流を目指した内容が掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩に出かけ地域の方に会った際はこちらから積極的に挨拶を行っています。施設周辺を通った際に不快な思いをさせないように、施設周辺掃除を行いきれいにしている。認知症連携の会に参加し、情報交換をしている。	感染症問題があることで、地域の方との交流は困難になっているが、近隣の方との挨拶を交わす等、日常的な交流につなげている。また、昨年については、事業所全体で開催した行事の際には、地域の方との交流が行われている。	地域の方との交流が中断している状況でもある為、感染症問題が落ち着いた際には、地域の方との交流が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方の相談を受けたり、地域の勉強会にて認知症の人の理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で得た情報を議事録で職員は確認をして日々のケアにつなげている。	今年度については書面による実施であるが、会議の際には複数の家族の参加が得られており、ホームから利用者の暮らしぶりを報告しながら、家族との意見交換につなげている。なお、小規模多機能事業所とは別に会議を実施している。	地域の方の参加が得られていない状況でもあるため、感染症の状況を見ながら会議を再開する際には、地域の方への継続的な働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険の内容など不明なことをご指導いただいたりし、連携を取っている。日々の運営についての相談に応じていただいている。	区内の介護事業所との連携については、併設事業所を通じて行われているが、ホームからも連携する機会もつけられている。また、区内の事業所連絡会にホームも参加しており、随時の情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全の為、玄関は施錠している。その他の身体拘束は行っていない。また、「身体拘束廃止及び適正化委員会」を発足し、毎月会議を行っている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、医療面での支援が必要な方についても、職員間で検討が行われている。また、毎月の会議を通じて身体拘束に関するチェックを行い、定期的な職員研修も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	介護保険指定事業者講習会で発信されている虐待についての情報を職員と共有している。日々の介護では利用者様の身体に内出血等がある際は職員で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全ての職員が把握出来ていないのは課題であり、職員が成年後見制度について学ぶ機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明しており理解や納得も確認できている。施設で出来ること、努力できることをしっかり伝え、出来ないことも同時に説明できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様やご家族様のご意見には早急に対応できるように意見、要望を受け止め、出た内容に対しては職員と話し合い、結果を必ずフィードバックしている。	感染症問題があることで家族との面会が困難になっているが、新たなLINEを活用したオンライン面会を開始する取り組みが行われている。家族からの要望等については、統括部長でもある所長による対応も行われている。また、毎月の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に会議を設けたり、面談を設けたりと話を聞く機会を設けている。日頃の思いやケア内容を振り返っている。	毎月の会議が行われている他にも、日常的な情報交換や随時のフロア会議が行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、所長による職員面談も行われている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日々職員個々の状況は把握できるようにしており、やりがいや向上心を持って働けるようにしている。働きがいのある職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に法人内外研修を職員に参加してもらい、常にスキル向上に努めている。また職員に目標を設定して頂き達成に向けて確認を行いながら一緒に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	勉強会や研修などにより、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談に時間をかけ、利用者様に安心してご利用していただく努力をしている。傾聴に心がけ、まずは信頼の獲得を重視し行っている。職員間で情報共有をし利用者様が安心していただけるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談に時間を掛け、ご家族様に抱えていた問題や不安を一緒に行うことで安心を伝え、ご利用していただく前に不安を軽減できるように努力をし信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談の中で必要としている支援を見極め、利用者様が一番合ったサービスを考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様の尊厳を大切にし、自分がされたくないことはしない。家族のように接し、近況のお話など何事も共有できる信頼関係を築くようにしている。馴れ合いの関係ではなく人生の先輩であることを認識し行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話で本人を交えて家での生活や様子など、話を聞くようにしている。また家族と関係を保てるように支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時には、ご本人との関係を大切にしていけるような支援をしている。	利用者の中には、併設事業所に入居前からの関係の方が利用しており、ホームの利用者との交流の機会がつくられている。家族の協力も得ながら、入居前からの社会活動を継続している方もあり、馴染みの方との関係継続にもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者同士の関係を維持できるように職員が間に入り円滑に過ごせるよう、席など配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後も施設によって頂く声掛けや他施設利用後支援が必要な場合は相談に応じています。また、施設行事に声をかけ参加頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月一人ひとりのカンファレンスを行い、利用者様本位の検討を行い話し合っている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握につなげている。また、日常的な申し送りや定期的なカンファレンスが行われており、利用者の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の面談で情報収集を行っている。個別レクリエーションや利用者様とのコミュニケーションにて把握を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	自立支援に心がけ、現存機能を最大限に引き出せるように努力しており、毎月カンファレンスにて情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族と連携し今後の介護方針を決めている。定期的に会議を行いより良いケアができる様にしている。	介護計画については、基本3か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも職員間で介護計画の内容を共有する取り組みも行いながら、毎月のモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づきや毎日の様子など記録に記載し申し送りやカンファレンスにて情報共有を行っており、ケアプランも書式の中に含め定期的に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	地域で参加していた交流会を継続し既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。また、医療ニーズも行えるよう勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	理美容や介護エステ、訪問マッサージなどを活用している。イベント時には落語や演奏などご参加頂き楽しんで頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族が希望するかかりつけ医を契約時に確認し、2週間毎の往診がされている。早期発見・早期対応に心がけ、適切な医療を看護師中心に選択し支援している。	ホームでは複数の医療機関との連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた医療面での支援が行われている。また、ホームに常勤の看護職員が勤務しており、日常的に利用者への医療面での支援が行われている体制がつけられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	朝礼時のカンファレンスや随時情報交換を行っている。早期発見・早期対応に心がけ、細かな気づきにおいても看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後はお見舞いに行き関係性も維持している。また病院先との連携を病院MSWと行い、情報交換を密に交換し早期退院や入院生活が少しでも不安が取り除けるように努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	当施設で定めた重度化対応指針に添って家族と事前に話をしている。また、利用者様に可能性が出てきた場合は事前に報告・相談をしている。	利用者の看取り支援も行われており、協力医との連携を深めながらホームで最期を迎えた方もいる。ホームでは専用の器具を活用する取り組みが行われており、職員が利用者の急変等にも迅速に対応できる体制がつけられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを整えており、AEDを使い研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練を実施し、地域の消防署と密に連携を図っている。	年2回の避難訓練が行われており、併設事業所とも連携しながら、夜間想定の実施や通報装置の確認が行われている。避難訓練を通じて、消防署との連携が行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホーム建物の制約もあることや身体状態の重い方も生活していることもある為、利用者の迅速な避難誘導に困難が予測される。近隣の方との連携も含めた、継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	馴れ馴れしくならないよう配慮し、接遇において心がけている。	運営法人の基本理念やホームの理念にも利用者を尊重した対応をすることが掲げられてあり、日常的な理念の唱和等を通じて、職員の意識向上につなげている。また、接遇にもつながる研修も行い、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意向を聞きながら対応している。自己決定を重視し、認知症による自己決定が欠損している場合は、なるべく職員が誘導等を行い対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設のタイムスケジュールにとらわれず、できるかぎりその人のペースに合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	好みの服を選んでもらったり昼夜のめりはりがつくように衣類の交換を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	できるだけ自己摂取できるように形態など工夫をしている。片付けを行っていただくように働きかけも行う。レクにおいては盛り付けなど一緒に行っている	食事については、外部業者も活用しながら提供しており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。ホームでも行事等に合わせた食事作り等が行われており、利用者も参加する機会をつくり、楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が考えた食事を提供し、食事摂取量、水分摂取量を毎食時や飲食時にチェックして確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを行っている。介助が必要な方はその都度対応している。月に一度往診にて口腔内のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	オムツやリハビリパンツは適材適所に対応しており、職員都合の介護でなく、利用者様視点でのケアに心がけている。立位保持の難しい方は2人介助にてトイレ誘導を行っている。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的な申し送り等も通じながら職員間で利用者に合わせて排泄支援につなげている。また、医師、看護師との排泄に関する医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	バナナ、牛乳、ヨーグルトの摂取をしている。排泄の頻度を把握し看護師と連携を図り、便秘を防いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日は固定となっているが、その日の状態に応じて入浴日を変更するなど柔軟には対応している。また気分よく入浴していただけるよう入浴剤を使用したりと支援している。	入浴については、3つのグループに分けて週2回の入浴ができるように支援が行われており、身体状態に合わせた職員2名での対応も行われている。また、浴室に炭酸泉の装置が設置されており、利用者の入浴につなげる取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その時の状態に応じて臥床時間を作っている。また、入眠状況をセンサーにて把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬を管理し、お薬情報が見れるようにしてある。症状の変化は毎日の観察を記録している。内服時は日付、名前を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	施設で植物を育て、園芸の得意なご利用者様と一緒に水やりなど行っている。レクリエーションを行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候に合わせてベランダの散歩を行い気分転換を図っている。	感染症問題があることで、利用者の外出は限られた範囲となっているが、ホーム近隣を散歩する等の機会がつけられている。昨年までは、季節に合わせた外出行事の取り組みや利用者の希望にも対応した外出支援の取り組みが行われている。	ホームでは、利用者の希望にも合わせた外出支援の取り組みが行われていたこともある為、感染症の状況を見ながら、利用者の外出につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在はお金の所持は行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持っている方や年賀状等のやり取りを支援している。ご家族と連絡を取った際は変わり話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアには季節を感じられる作品やレクリエーションの写真を掲載している。定期的にレイアウトを変更したりと試行錯誤している。	ホームのリビングについては、限られた広さとなっているが、リビングの前のベランダに出る等、利用者がリビング以外で過ごす場所もつくられている。また、リビングの壁面には、季節に合わせた飾り付けや利用者による作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになりたい際は居室にて対応し、孤立しないよう1人席は作らず利用者同士過ごせるような空間づくりは行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に馴染みある家具、コップなど持ち込んで頂いて、本人様と配置など相談し使いやすいよう配慮している。	利用者や家族の意向等に合わせた使い慣れた家具類や趣味の物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。なお、居室には、専用のセンサー装置でもある「眠りスキャン」を全室に設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の能力に応じて安全でできることは促すようにしている。		